

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102907
法人名	医療法人社団 緑洋会
事業所名	グループホームアダージオ泉
所在地	香川県高松市春日町1336番地1 (電話) 087-841-8828

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年9月7日	評価決定日	平成19年10月15日

【情報提供票より】(19年 8月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 4月 15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	13人 常勤 13人、非常勤 人、常勤換算 6.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 3階建ての1階 ~ 2階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,000円	その他の経費(月額)	11,000円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	450円
	夕食	450円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月 7日現在)

利用者人数	18名	男性	9名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.1歳	最低	73歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高松協同病院、屋島総合病院、泉クリニック、てらい歯科矯正歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中で、近隣の民家と接したホームの玄関は入りやすく、地域に馴染んでいる。室内は明るく、落ち着いた雰囲気のある共有室と、各部屋には庭に面した窓が2面ずつあり、緑の木や花を楽しめる落ち着いた居心地の良さを与えている。
職員は入居者の個性を尊重して、一人ひとりの生活リズムに合わせた支援をし、入居者はゆったりと自分のペースで自由に過ごさせている。また、開設者が認知症専門医であり、日々ホームに来てくれ、協力病院との連携も良く、入居者や家族は安心して過ごさせている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、運営理念の取り組み、ケアサービス、運営体制、地域との交流の分野で、いくつかの改善課題があったが、入居者の健康や介護の状態の情報、支援記入の記録用紙の改善や、外出の機会を増やす等の地域との交流の取り組み等について、具体的に解決できるところから努力している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットでより良い支援を行うために、自己評価は全員で取り組み、朝夕の申し送り時のカンファレンスを有効に活かして、意見を集約できており、職員からの声や意見を反映している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2か月に1回、家族、市の介護保険担当者、地域包括支援センター保健師、地域の代表者等の参加により、実施されている。地域の方にホームの理解を得ていくための情報提供や、ホームでの生活状況が報告されているが、地域交流や地域の協力等の検討を進め、さらに積極的に協力依頼を協議していくことや市との連携の進め方が今後の課題である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時を利用して、家族に健康状態やホームでの生活状況等を報告して、家族からの意見や要望を聞いている。得られた情報は記録をし、引き継ぎ時に全職員に伝えて共有し、素早く対応や改善に取り組むよう努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の保育園児の訪問、福祉施設の行事に参加、近隣の店への買い物時や散歩時の挨拶等の交流があるが、地域との支え合いの分野での課題はこれからである。地域との交流の働きかけを運営推進会議等で積極的に行い、交流と支え合いを深めるような取り組みが望まれる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を「ゆるやかに老いを受け入れて、ゆったりした気持ちで暮らしていく中で生きる喜びを感じられるところ」とし、地域での暮らしを支え続ける支援に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム玄関に掲示されており、職員一人ひとりが中身を理解しているが、さらに日々の実践の中での共有化と、具体的なケアの取り組みをしていくことが期待される。	○	日々の利用者への実践のなかで、管理者と職員が理念を掘り下げて話し合い、何を大切に利用者に向かい合うのかを確認し、事業所独自の具体化したケアの理念に取り組むことが期待される。
ぐたいてきなケアを					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園児やボランティアの訪問があり、利用者も楽しみにしている。地域への参加の機会は少ないが、福祉施設の行事への参加や、近隣の店での買い物時に地域の方との挨拶等の中から、少しずつ地域の一員となれる機会を増やす努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を踏まえて、支援記録の見直しや、家族も参加できる外出の機会を増やす等、具体的な改善がなされている。今回の評価においても、職員全員での取り組みがうかがえる。	○	事業所として、管理者が変更している時であるため、管理者と職員全員で外部評価の意義と結果を話し合うミーティングや、運営推進会議、勉強会等を設定して協議し、共有し、できることから具体的な支援の改善に取り組むことが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの運営推進会議の委員は、地域の方、家族会、市の担当者、市の地域包括支援センター職員、ホーム職員で開催されているが、地域の方々グループホームを十分に知らない方が多い。	○	グループホームの状況や利用者の生活、健康状況報告と共に、地域の支援を得るための機会として、外部評価の結果と課題、ホームの災害時の取り組みと地域の支援要請、地域行事への参加等を協議され、運営推進会議がサービス向上に活かされるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議では、事業所の報告やサービスの取り組みを報告するが、それ以外は、行き来の機会がほとんどない。</p>	○	<p>管理者が交替するので、この機会に市担当者へ事業所の取り組み等の実情を報告し、アドバイスや情報をもらえるよう、普段から機会を捉えて伝える等の関係作りが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時には、必ず管理者やケアマネージャー、または職員が利用者の健康状態、生活の過ごし方等を報告し、毎月の行事参加の様子を写真等で知らせている。買い物等の金銭管理は、事後請求として報告している。面会のない月は、電話を活用し、個々に報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・意見箱の設置や面会時などに家族から意見・苦情を聴けるよう、管理者、職員で話しやすい雰囲気づくりに配慮している。得られた情報は記録して、職員間で共有し話し合い、早急に対応できるように取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は、利用者の理解を深めるためにユニット間で定期に実施し、離職等に対しては、利用者への馴染みの関係を保つよう支援に配慮し、ダメージを最小限にする努力や工夫に努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の研修は、業務の中やカンファレンスでの指導等が行われているが、計画的・段階的な研修受講や指導手順等の活用は、行われていない。</p>	○	<p>職員の質の向上のために、計画的に、職員の段階に応じて、事業所内外の研修年間計画を立てる等、職員の育成が期待される。また、研修の復講や業務を検討する機会を確保することも期待される。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の同業者との交流は、個人的なつながりを除くと、管理者も職員も交流はみられない。</p>	○	<p>管理者や職員が、地域の同業者との交流や連携を通じて、サービスの質の向上に役立てるような実践の取り組みが期待される。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のホーム見学は、家族のみの実施がほとんどである。事業主である専門医との相談のうえ、管理者が本人・家族との面談や、入院先の訪問を重ねる等、配慮しているが、早急なサービス開始の利用者が多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で昔の話を聞いたり、生活の知恵や昔のこと等を教えてもらう等、共に支え合う家族として一緒に過ごす中、会話を大切にし、利用者が自然な表情で穏やかに生活を楽しんでいる様子がうかがえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけや見守りをする中の会話や表情から、利用者の思いを理解するよう努め、記録をして、職員間で話し合い、共有している。また、家族からの情報を得るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員でカンファレンスをして、気づきや意見、アイデアを出したものを基に、計画担当が個別の具体的な介護計画案を提示し、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの定期的な見直しのほか、状態に応じた計画の見直しがなされている。常に、家族の希望や職員の意見を取り入れ、家族の同意を得たものが計画されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	指定を受けたサービスはないが、利用者や家族の状況に応じて、通院や診療の支援等に柔軟に対応できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談して、主治医の診察を基本に受診支援をしているが、事業主が認知症の専門医であり、毎日ホームに来てくれるので、適切な医療への受診支援に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は対象者はいないが、入居時に家族からホームの対応についての質問等がある。入居時に医師や家族との話し合いを行い、医療機関の協力のもと、できる限り、本人や家族の希望に添えるよう取り組む姿勢である。	○	今後、ホームでの対応のマニュアル等を話し合っ、職員が関連施設の医師や看護師の協力を得て、重度化・終末期の支援の研修や勉強を重ねていくことが期待される。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中での一人ひとりへの言葉かけや支援は、誇りやプライバシーを損なわないように留意している。個人情報の扱いは、職員が十分に認識し、対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決められているが、個別の希望に添えるよう、声かけや見守りの中で、個人のペースを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は専門業者から栄養計算のできた献立で、バランスのよい食材が毎日届けられている。調理や配膳のできる利用者は手伝い、下膳はほとんどの利用者が自主的に各自で行っている。職員の見守りや声かけで、一人ひとりのペースで食事ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴は午前中に設定されており、今までの生活リズムと異なる利用者は、馴れるまでは何度も職員の説明を必要とする。午後の生活支援やレクリエーションの参加が、ゆっくりと個々のペースに添ってできる利点はあるが、午前以外の個々の希望に添える対応は現在は難しい。	○	職員の都合にあわせた朝の入浴については、利用者の長年の生活習慣の変更を強いており、朝の入浴への変更し馴れない利用者への支援について、検討が期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が手伝う時は感謝の言葉を伝え、一緒に行っている。食事作りや洗濯物を干したり、たたんだり、掃除等の手伝い等、日常的なことで、利用者の生活歴や力を活かすような支援が見られる。レクリエーションや趣味のもの、音楽の楽しみ等は、個々の希望に添った支援がみられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等の希望を、日々の生活に取り入れるよう工夫している。また、利用者と話し合っ、外食や温泉等、家族も参加できる楽しみの大きい外出の機会を増やした支援にも取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をしていないが、道路に面しており危険なので、玄関を入った後のユニットの入り口に鍵をかけている。また、建築構造上、数人の利用者の部屋がユニット入り口から離れており、見守りができないためでもある。現在の利用者は落ち着いており、鍵に対するトラブルはないが、安心、安全のために家族の了解をいただいている。	○	運営者及び職員が、鍵をかけることの弊害をよく理解した上で支援ができるように、勉強と話し合いをして、鍵をかけない時間帯や特定日、見守りの実践の時間を作る等の検討に期待すしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災避難訓練では、近隣への周知後、利用者の避難を駐車場まで実施し、利用者と職員の避難方法が共有できている。	○	避難訓練時に、消防署の協力を得た避難訓練、避難経路の確認、応急手当などを実施できるように計画し、運営推進会議等で協力を呼びかけ、地域の協力が得られる体制作りへの取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、個々にチェック表で確認し、職員が共有して支援できている。食事は栄養バランスの取れた献立で、一人ひとりの状況に合わせた調理と支援の実践がみられる。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール、廊下等は、自然の光と風が入るようになっており、落ち着いた調度や絵画、床暖房により、居心地の良い共有空間が工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室南向きの明るい部屋で、備え付けの電動ベット、整理ダンスのほか、家族と相談して利用者の好みの品物が持ち込まれ、自分の作品や花などにより、自由な個室となっている。		